

極域・寒冷域研究連絡会のご案内

極域・寒冷域研究連絡会より、2010年秋季大会（京都）での開催内容のご案内をいたします。

日時：2010年10月27日（水）（大会第一日目）18:15～2時間程度

場所：京都テルサ 第1会議室（西館3階）（大会D会場）

話題：雪を考える

ー 降雪と積雪のフィールドワーク ー

「北極圏単独歩行から見た雪氷の変化」

荻田泰永（荻田泰永北極点事務局）

「北ユーラシアの積雪変動から見た北極圏気候変動」

飯島慈裕（海洋研究開発機構 地球環境変動領域）

「極域に降る雪の結晶」

菊地勝弘（北海道大学名誉教授）

観測は自然科学の基盤の一つですが、雪氷圏の観測においては、現地にたどり着くことや観測機器における困難をしばしば伴います。今回は、雪氷圏で観測や活動をされている方々に講演をしていただきます。特に、積雪と降雪に関する観測的研究を取り上げます。

初めに、この春に北極圏単独歩行から戻られた荻田泰永氏から、北極海の海氷・環境に関する報告及び今後の活動の中での研究協力についてお話をいただきます。次に、モンゴルやシベリアで数年間に亘って積雪の観測を続けている飯島慈裕氏から、北極圏規模の気候変動に関連付けたお話をさせていただきます。最後に、菊地氏には、降雪の観測、特に雪結晶の写真を使ってお話をいただく予定です。降雪の研究として、中谷宇吉郎先生から始まり、Magono and Lee (1966)に発展した雪（結晶）の分類が世界的に知られています。菊地氏を含めたグループでは、これまでの北極域や南極域のデータを含めて、雪の分類の更新を目指した活動を進めています。

降雪は、氷晶生成からそれが成長して地表に落ちるまでのせいぜい数時間程度の現象です。しかし、その降雪から作り出された積雪は、数か月に亘り地表に維持され、季節や年を越えた現象にまで議論が及びます。別々に議論されることが多い両者を見比べ、また、これまでの観測事実をもう一度見て、新しい考え方や課題を生み出すチャンスにしたいと思います。

問い合わせ先：高谷 康太郎 (JAMSTEC)

TEL: 045-778-5526 FAX: 045-778-5707

E-mail: takaya@jamstec.go.jp

URL:

http://polaris.nipr.ac.jp/~pras/coolnet/cl_index